

野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

2006年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)概要

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2006年11月7日(火)～11月9日(木) 2泊3日

場 所: ひこね市文化プラザ(滋賀県彦根市)

講師と科目: 徳田裕之(鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、

特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域保護管理)

: 羽澄俊裕(カワウ広域協議会および関東カワウ広域保護管理指針について)

: 加藤ななえ(一斉モニタリング調査による状況把握と情報の共有化、

及び広域一体的な対策について)

: 高木憲太郎(地域実施計画とは?)

: 小川好伸(静岡県カワウ保護管理実施計画とその活用)

: 坪井潤一(山梨県における任意計画の作成と具体的な対策の進め方)

野 外 実 習: 姉川(滋賀県長浜市) 防除対策の視察

実 習: 地域実施計画の作成

・地域実施計画とは?

・対策手法の紹介

・地域実施計画作成の流れ

現地説明者: NPO 法人バードリサーチ

一斉モニタリング調査による状況把握と情報の共有化、 及び 広域一体的な対策について

NPO 法人バードリサーチ 加藤ななえ

カワウは広域を移動する鳥であり、その生息状況を把握するためには、都道府県の境界を越えた情報の共有が欠かせない。また対策の計画や実施についても協働できる体制を整える必要がある。関東カワウ広域協議会では、関東カワウ広域保護管理指針のもとに、2005年度より「一斉モニタリング」と、広域一体的な対策として「一斉追い払い」を実施した。

一斉モニタリング

カワウの季節移動などの研究成果から、カワウの個体数の変動を捉えるためには、夏と冬、そして繁殖期の年3回調査を行なうことが最も適しているとされている。そこで、広域協議会では7月、12月、3月に一斉モニタリングを行なうことにした。必須の調査項目は、確認された全てのねぐらにおける個体数と営巣数である。結果の共有を円滑におこなうために、協議会事務局では、調査用紙やねぐらの情報を取りまとめるためのシートを見本とともに都県へ配布した。そして、調査結果を事務局が収集して、関東地域全体の結果を総覧できるように表と地図にまとめ、協議会へ提出している。2005年12月から始まり、現在、1年分のデータが蓄積され、ねぐらの分布とそれぞれの規模、及び季節変化が明らかになってきた。

一斉追い払い

個別におこなわれてきたカワウの追い払い対策を、時期を合わせて一斉に実施する事でその効果を上げようと計画された。当初、カワウの個体数を調整する可能性を考慮して、冬期の追い払いが提案されたが、積雪のある地方では実行が困難であるという指摘や、守るべき対象魚がいない時期では漁協の意欲がわかないという意見が出され、全域での実施はできなかった。その後アンケートの結果をもとに協議し、アユの放流や遡上の時期であることと、バードウィークを外すことを配慮し、2006年4月19日から28日10日間に集中して対策をおこなうこととした。

漁協に記入してもらった実施日記と都県でのまとめのための用紙を、見本とともに配布した。記録が必要な項目は、いつ(日、時間帯)、何処で、どんな対策を、どれほどの規模でおこなったかである。同時に、対策の効果を測定するために、対策実施期間の前後に飛来調査をおこなった。

この対策には、69の漁協が参加し、ロケット花火を使用する見回りや銃器による捕獲のほか、テグスや案山子の設置などが集中的に実施された。努力量と対策の効果は地域によってばらつきがあったが、関東全体では、対策実施前よりも実施後に飛来数がおおよそ20%減少したという結果を得る事ができた。

今回の結果を踏まえて、再度目標を設定し、実施時期や期間の見直しをおこない、追い払いの実行体制を強化する工夫などを検討していく必要がある。

2006年
カワウの保護管理に関する研修会 講義C

一斉モニタリング調査による状況把握と情報の共有化、 及び広域一体的な対策について

NPO法人バードリサーチ

加藤 ななえ



体長約80cm
体重約2kg

若鳥



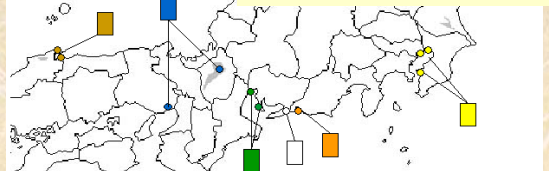
繁殖期



高い移動能力



標識による移動状況調査



(カラーリングには英字、数字、横線などの記号が彫り込まれている)

連絡先：日本鳥類標識協会
カラーマーキング登録委員会
(山陰鳥類研究所標識研究室気付)
カワウ登録担当者：福田道雄
mogu@fuku@beige.ocn.ne.jp

カワウ標識調査グループ
<http://www6.ocn.ne.jp/~cring973/>



ねぐらと繁殖



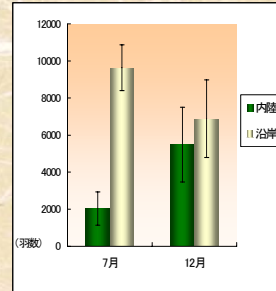
モニタリング調査表の集計用紙

カワウ個体数調査 集計用紙

ねぐら・コロニー名 _____
 所在地(住所) _____
 生息環境1 海・内湾・河口・河川下流・河川中流・河川上流・池・沼・湖・ダム・その他() _____
 生息環境2 公園緑地・雑木林・植林地・芝原・草地・牧場・その他() _____
 調査代表者氏名 _____ 調査代表者の経験 _____
 調査者人数 _____ 人 鳥類調査の経験 あり() 年) なし
 調査日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____
 営巣数 _____ 巣
 個体数(開始時+帰還+飛去) _____ 羽
 開始時に既にねぐら入りしている個体 _____ 羽

用紙No.	帰還								飛去
	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	
1									
2									
3									
4									
合計									
利用可能面積	m ²				ねぐら利用面積				m ²
ねぐら利用場所	樹上・地上・構造物()				ねぐら利用樹種				
営巣利用場所	樹上・地上・構造物()				営巣利用樹種				
樹木枯死面積	m ²				樹高				なし・0~5m・5m~
樹木枯死状況									

関東カワウ広域協議会 一斉モニタリングの実施時期の検討



過去の研究事例を参考に
夏と冬
繁殖期の春に実施を決定

確認されたねぐらのすべてで

7月 12月 3月

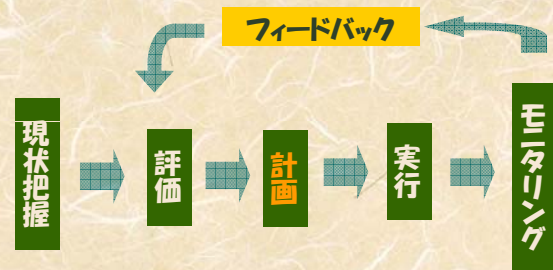
個体数と営巣数を調査する

2003鳥学会大会要旨より
加藤ななえ (NPO法人バードリサーチ)

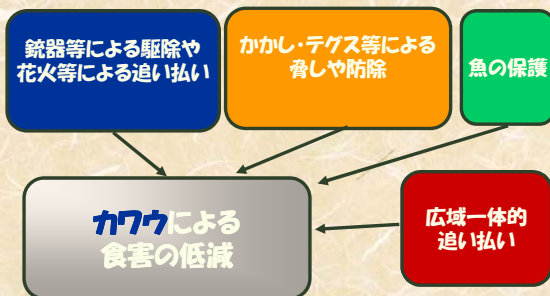
関東カワウ広域協議会一斉モニタリング 結果 2005年-2006年7月調査より ねぐら分布



鳥獣管理の考え方 (結果を反映させる)



カワウによる被害対策 組み合わせ



関東カワウ広域保護管理指針より

Ⅲ-3- (1)

短期的対策
被害防除

① 一斉追い払い

・各被害地で個別の対策をおこないつつ、適切な時期を選定し、**広域一体的**に徹底した一斉追い払いを実施する

・一斉追い払いの**効果的時期**として、食料不足になって個体数が減少する冬、放流・遡上の時期などが考えられる

・一斉追い払いの**効果**、すなわち個体数の減少や密度分布の地域的変化については、モニタリング調査で把握する。

実施

- ・ 2006年4月19日～28日の10日間
- ・ 69漁協が参加
- ・ ロケット花火 かかし テクス張り 銃器捕獲など

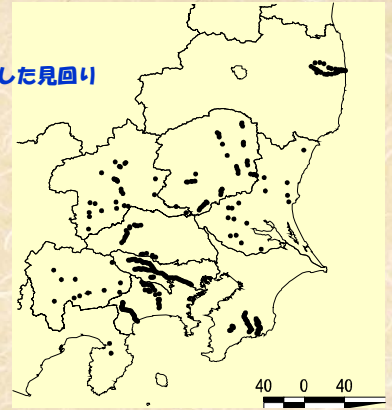
マスコミによる取材、報道・・・事務局対応11社
 毎日新聞 読売新聞
 テレビ朝日 フジテレビ NHK など



漁協の反応・・・被害の状況や漁協の取り組みが
 報道されたことで動きになった

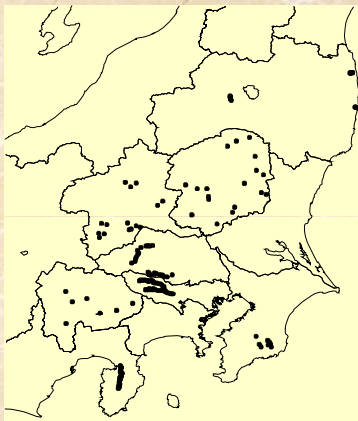
対策

ロケット花火を使用した見回り
 および
 銃器捕獲が
 おこなわれた場所



対策

かかし
 および
 テクス張りなどが
 おこなわれた場所



山梨県の場合：実施状況

漁協名	ロケット花火など	銃器による捕獲	釣針による捕獲	かかし	糸張り
映北	10日×28人		10日×2人		20箇所
山梨中央	10日×5人			8箇所	6箇所
映東	10日×3人			69箇所	50箇所
富士川	10日×4人	2日×13人	3日×5人×5箇所	49箇所	10箇所
丹波川	延べ17人				
桂川	10日×8人	10日×15.5人	10日×6人×3箇所		80箇所
都留	10日×18人		5日×18人	18箇所	8箇所
道志村	10日×4人				
河口湖	10日×3人			32箇所	1箇所
西湖	3日×4人		2日×6人×2箇所		
精進湖	4日×3人				

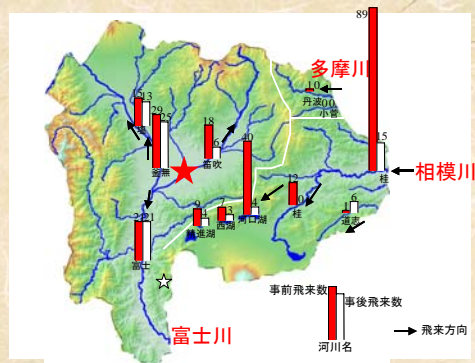
山梨県水産技術センターより

山梨県の場合：効果測定のための調査

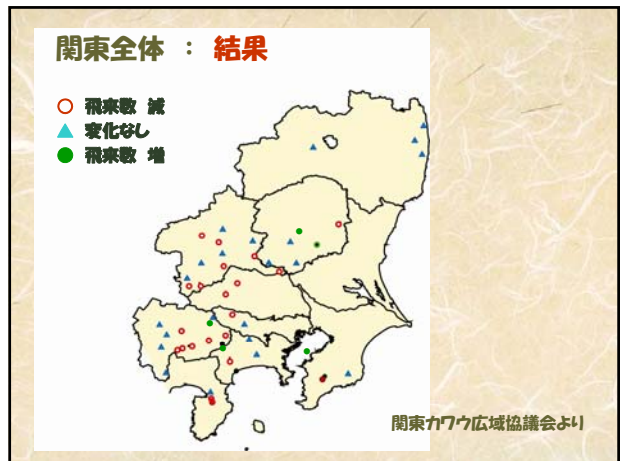
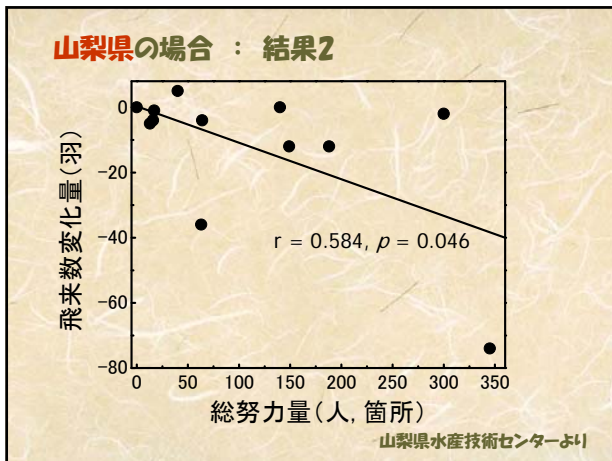
漁協名	調査場所	事前調査	調査時間帯	飛来数	事後調査	調査時間帯	飛来数	
映北	塩川大橋	4月17日	4:50-7:00	15	5月1日	4:40-7:10	13	
山梨中央	偃玄橋	4月17日	4:50-8:50	29	5月1日	4:30-7:00	25	
映東	笛吹橋	4月17日	4:50-8:10	18	5月1日	4:40-7:00	8	
富士川	富士橋	4月18日	8:00-8:30	15	5月1日	8:00-8:30	18	
富士川	万葉橋	4月18日	4:40-8:50	6	5月1日	4:15-8:15	5	
丹波川	清水橋	4月19日	5:00-7:00	1	4月28日	5:00-7:00	0	
桂川	桂川橋	4月17日	4:40-8:40	89	5月1日	4:25-8:30	15	
都留	牛石橋	4月17日	5:00-7:00	12	5月1日	5:00-8:00	0	
道志村	岡国橋	4月17日	4:45-7:15	1	5月1日	4:40-7:00	6	
河口湖	全域	4月17日	8:40-12:00	40	5月1日	8:45-12:00	4	
西湖	全域	4月17日	5:00-7:00	7	4月30日	5:00-7:00	3	
精進湖	全域	4月18日	5:30-8:00	9	4月29日	6:00-8:30	4	
				242				
					97			

山梨県水産技術センターより

山梨県の場合：結果1



山梨県水産技術センターより



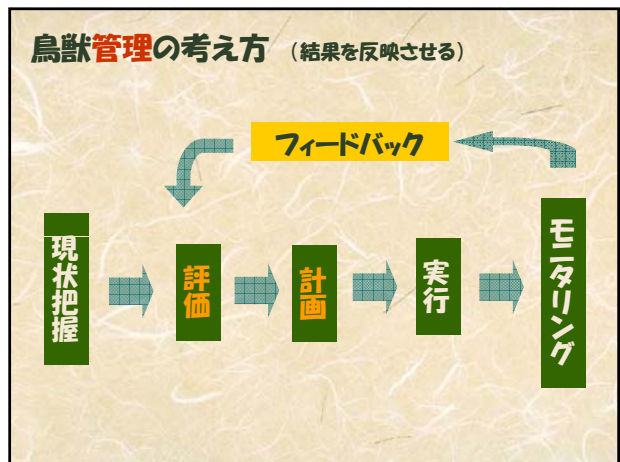
関東全体：結果

2008年4月カワウ青遣い払い 対策と飛来調査

都道府県	対策	対策実施日時	実施場所	飛来調査	前	後	変化差	変化割合
埼玉県	A. ロケット花火等 目撃者捕獲 C. かかし D. テラス等 E. 隠れ場所 F. その他	15km	熊野川	35	28	-7	-19.4	
			荒川	45	37	-8	-17.8	
			利根川	38	42	4	10.5	
			秩父川	104	85	-19	-18.3	
～ 省 略 ～								
山梨県	A. ロケット花火等 目撃者捕獲 C. かかし D. テラス等 E. 隠れ場所 F. その他	80箇所	山梨県	1	0	-1	-0.0	
			山梨県	89	15	-74	-83.1	
			山梨県	12	0	-12	-100.0	
			山梨県	1	6	5	500.0	
			山梨県	15	13	-2	-13.3	
			山梨県	29	25	-4	-13.8	
			山梨県	18	6	-12	-66.7	
			山梨県	21	21	0	0.0	
			山梨県	40	4	-36	-90.0	
			山梨県	7	3	-4	-57.1	
			山梨県	3	4	1	33.3	
静岡県	A. ロケット花火等 目撃者捕獲 C. かかし D. テラス等 E. 隠れ場所 F. その他	2箇所(1徳音部)	静岡県	368	192	-176	-47.8	
			静岡県	2	4	2	100.0	

参加 69漁協 関東広域範囲 3135 2476 -659 78.7

★ 関東全体で内水面漁場へのカワウの飛来数は約20%減少した



関東全体で内水面漁場へのカワウの飛来数は約20%減少した

ポイント
この対策によって、アユを守ることができたかどうか
↓
客観的な評価が難しい

静岡県のアンケートより

効果あり	6漁協	興津川、安倍薬科川、瀬戸川朝比奈川、阿多古川、氣田川、佐久間ダム
効果なし	4漁協	狩野川、新大井川、水窪川、満川
わからない	5漁協	大井川、原野谷川、木田川、天竜川、都田川

今後の進め方

各漁協、都県ごとの評価を整理する

検討項目

- 実施時期や実施期間の見直し
- 追い払いとモニタリングの実施体制の工夫
- トライアルエリアでの実験の組み立て
- 越冬期での実施の可能性

など

次期の計画作成